

リニア環境評価「具体策を」

県審査会 答申案まとまる

2027年開業予定のリニア中央新幹線について、

JR東海の環境影響評価準備書を審査する県の審査会(会長＝益永茂樹・横浜国大教授)が28日、横浜市中区で開かれ、黒岩知事に提出する答申案の概要をまとめた。同社から具体的な回答が示されなかったとして、

総括事項に「審査に必要な十分な資料が提出されたとは言いがたい」とする意見が盛り込まれるなど、厳しい

内容となった。

審査会は工事による地盤沈下や騒音などの17項目で

答申案を検討。県内区間の約9%を占めるトンネルの

工事などで出る残土の問題については、「できる限り

発生量を抑える工法を選定する必要はある」として、

具体的な処理方法を評価書に記載すべきだとした。

振動や低周波音などの項目でも、評価書に具体的な

環境保全措置を示すよう求めるほか、地下水など水資源の項目でも局地的な影響

を調べるよう注文する。

知事は、環境への影響が懸念される3市1町(横浜、川崎、相模原市と愛川町)

2014.3.1(土)

の各首長から提出された意見も踏まえ、3月25日までにJR東海に県の意見書を提出する。

リニア環境影響評価知事に市長が意見書

川崎市は28日、リニア中央新幹線の環境影響評価準備書に対する市長意見書を黒岩知事に提出した。

大気汚染や騒音、振動、地盤沈下などの調査地点を明らかにし、結果を速やかに公表することを求めた。

また、市内に住民の問い合わせ窓口を設置する必要があるとした。このほか、市は

条例に基づいた準備書の審査結果を発表。麻生区では市道王禅寺35号線が工事用道路として使われる予定だが、大型車の通行が規制され、小学校の通学路でもあ

ることから変更を求めた。